



### 性別にとらわれない生き方を

僧侶で落語家の露の団姫さんが「女らしくなく男らしくなく 自分らしく」と題し、笑いを交えながら男女共同参画や人権について講演。もっとすてきに“パートナー”委員会と市人権教育協議会主催で、露の団姫さんは自身の経験を振り返り、「性別にとらわれない生き方をしてほしい。人権の基本は自分も相手も大切にすること」と説き、自分らしく生きる大切さを伝えました。〔7月3日、市民交流施設〕



### 安全にワクチンを配送

指定医療機関で基礎疾患患者への新型コロナワクチン個別接種を開始するのに合わせ、市はワクチンの配送を神姫グリーンバス株式会社(神河町)へ委託しました。配送は週2回で、同社はワクチンを受け取った後、専用車両で2時間30分以内に各医院へ配送。車内には緩衝材を敷いたり、保冷容器に遮光シートをかぶせたりして、ワクチンを安全に運びます。初日は6医院へワクチンを届けました。〔7月2日、市役所〕



### 災害に備えて—避難所運営・避難行動を再確認

本格的な大雨や台風シーズンを前に避難所の運営説明会を開き、避難所に従事する市職員約60人が参加しました。コロナ禍における避難所では、受け付け時に検温や健康チェックを行います。職員は受け付けのほか、避難所運営全般にかかる説明を受け、一連の手順を再確認しました。また、西脇警察署や西脇消防署の署員からコロナ禍の避難所で気を付けることを、それぞれの立場から助言いただきました。

一方、ウェブ上で避難所の位置と混雑状況を確認し、災害発生時の避難行動を考える「オンライン避難訓練」を同時に実施。避難所の混雑状況を可視化するサイトを閲覧した市民は、避難所の状況や位置を確認し、災害時にどこへ避難すべきかを考えました。〔6月30日～7月1日、市民交流施設〕



### 短冊に願い込め

七夕に合わせ、短冊を書いて笹に結ぶコーナーを設置。子どもたちに日本の風習に親しんでもらおうと企画したもので、来館者が思い思いの願いを書いた短冊がつるされました。〔6月28日～7月14日、茜が丘複合施設みらいえ〕



### 安全運転を一啓発活動

「夏の交通事故防止運動」に合わせ、西脇多可交通安全協会などのメンバーが啓発活動を実施。みらいえの利用者に啓発グッズを手渡しなが、交通安全を呼び掛けました。〔7月16日、茜が丘複合施設みらいえ〕



### 調理風景を見学

楠丘小学校の2年生が授業で育てたキュウリやナスを特産加工品開発グループ「黒っ娘おぼんざい」に提供。キュウリが入った巻きずしの調理風景を見学しました。〔7月14日、コミュニティセンター黒田庄地区会館〕



### 西高生、古民家でワークショップ

西脇高校生活情報科の生徒が播州織作品の展示などを行うアトリエをオープンさせました。アトリエは播州織工房館近くの古民家を改修したもので、初日は播州織マスクを作るワークショップを開催。今後おおむね1週間に1回のペースで小物づくりのワークショップを開き、播州織の魅力を紹介します。〔7月10日、西脇高校アトリエ〕



### 犯罪や非行のない社会に

社会を明るくする運動強調月間に合わせ、メッセージ伝達式を開催。北播保護区西多分区保護司会の岩本幸久会長が「誰一人取り残さない社会を構築することが重要。更生保護の取り組みを充実させる必要がある」などと総理大臣メッセージを読み上げ、片山市長と犯罪や非行のない地域社会づくりを誓いました。〔7月1日、市役所〕